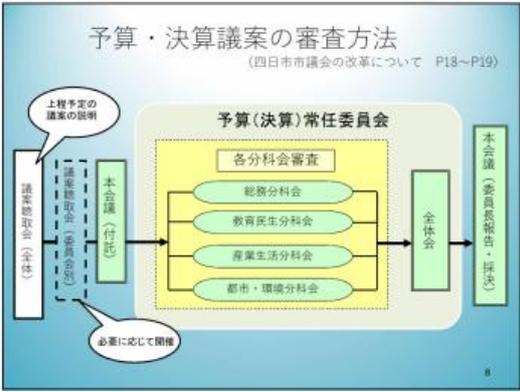


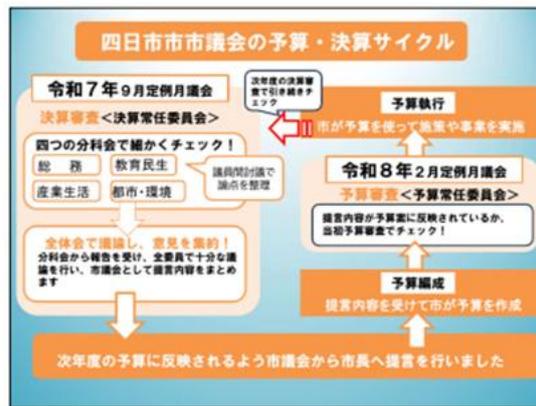
松阪市議会議長 濱口高志 様

視察報告書

下記の内容で研修いたしましたので、報告いたします。

日時:	令和 8 年 2 月 6 日(金曜日) 10:00 ~ 11:40
会場:	四日市市議会
テーマ:	議会改革～決算を予算につなげるサイクルと政策研究会～
出席者:	(四日市市議会)荒木美幸副議長、上麻理議員 (松阪市議会)深田龍、吉川篤博、森遥香、小野建二、西口真理、山本芳敬、久松倫生
内容:	<p>●予算・決算議案の審査方法</p>  <p>① 執行部からの決算資料の説明 全体の議案聴取会において、概要の説明、各委員会では主要政策実績報告書を使い、主な事業の説明がある。追加の資料請求があるなら、その説明が入る。追加資料の請求がない場合は質疑から始まる。</p> <p>② 分科会の論点整理 回数や時間の制限は設けていない。議員間討議で論点整理が行われることもある。課題やテーマは委員間で協議して、論点整理している。自然発生することあれば、委員長や委員からの発言で検討するケースもある。</p>

●決算を予算につなげるサイクル



① 次期予算編成のための意見

委員や委員長から議員間討議を提案する。(論点整理シートを活用)

② 執行部からは提言チェックシートで議会に回答。それを議会は予算としてどのように反映されたかの確認を行う。

③ 予算に反映された事業成果の検証を行う(次の決算議会)

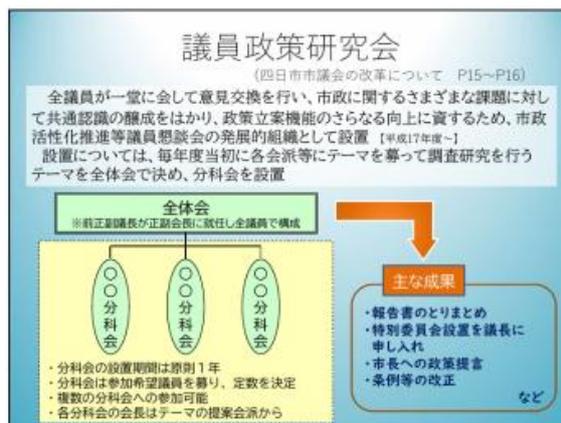
Q. このサイクルシステムに対する市民の反応は？

市議会だよりで特集したり、議会報告会にも反映したりしている。仕組みについて市民からあまり声は届いていない。

Q. この仕組みの導入にあたり参考にした市議会はあるのか？

参考にした市議会は、高山市議会(政策提言)、佐賀市議会、半田市議会(事業評価)

●議員政策研究会について



・希望を聞いて分科会の構成を決めるため、多い分科会もあれば、少ない分科会もある

・テーマによっては、特別委員会の設置を議長に求めたり、市長に提言、条例の改正を求めたりするケースも。おおよそ5～6回の調査後、調査結果をとりまとめる

質問:

・決算議会でスケジュール的に一般質問はどこに入るのか？

→ 開会後に一般質問を行っている。分科会の審査、全体会と続く。並行して、一般会計補正予算も審査している。後半に決算審査にしても予算反映に間に合うという執行部の意見も踏まえて現行の進め方となっている。

・チェックシートの文量や内容の具体性は？

→ 令和元年度がスタート。15個ほど提言が出てきていた。委員長の手腕がすごく大事。委員長が、“この事業は意見が多かった”や“拡充していく必要があるのではないか？”など具体的な投げかけの作業をしている。委員長の仕事や役割はこの仕組みが始まってから大きく変わってきている。決算委員長から正副委員長への投げかけもあり、今年度は5つくらい出た。会派で勉強会もしている。

・参考市議会の詳細を教えてください

→

高山市議会：政策提言を平成23年から積極的に。政策討論会全大会を実施や合意形成から提言をしている

佐賀市議会：附帯決議の定例化。決算議案に附帯決議を。予算までに附帯決議に対する回答をもらい、さらにその内容を予算で確認。

半田市議会：事業評価の仕組。事務事業評価シート、事業個別の評価。議員総会で評価結果の通知を行う取り組みをしている。

・議案審査の時間はどれくらいか？

→ 3～4日。一日一部局の感覚。もう一日くらい欲しいと感じることはある。主要な議案には時間をもって審査していくべき。各委員会で所要時間は違う。

・議案の聴取会(7日ほど前)について、実績報告書の資料を見て聴取会を行うのか？事前審査にならないか？が懸念される

→ 執行部からの詳細な説明はない。絞った説明のみ。不明な点を確認する or 資料請求。委員会別の聴取会を別で行う。同じく説明に対する不明な点の確認 or 資料請求で留めている。

・決算は前年度、現年度の確認も必要かなと感じている。見解は？

→ 現年度についても委員会のなかで自然に確認していく。

・常任委員会で行っているのは大きな違い。常任委員会の任期は？メリットは？

→ 常任委員会化しているのがフットワークよく動けるし、全員が関わっているのが大きな意味をもっている。これまでは1年任期だったが、今は任期を2年に固定している。

・分科会の中で論点整理をする。どの時点で議員間討議をされているのか？

→ 論点整理は難しい。様々な意見が出る状況があれば、委員長の采配でもっていく。一度、正副委員長に預けてもらう。委員から論点シートが出るケースも。

・各自の賛否の答えが見えている中、どうまとめているのか？

→ 全員の合意があってあげられるようにしている。全体会ではねられるケースもある。それだけ難しい工程を作ることでも重みをもっていると認識している。

・常任委員会における政策提言はないのか？

	<p>→ 委員会でとりまとめたものを委員会から議長を通して、市長へ提言していることもある。</p> <p>・提言した時に内容が予算編成にまで及ぶ内容もあるのか？ → 提言内容に金額は記載しないが、こうして欲しいという書き方に留めている</p> <p>・この仕組みの成果は？ → 100%なんらかの動きがある。予算まではいかななくても、調査研究してもらって結論としてダメなものもある。進捗状況を確認して、ちゃんと反映されていれば終結。でなければ、継続。</p> <p>・政策研究会について、会派から何名までとか決まりはあるのか？ → 人数は上限下限の制限はない。4つ5つできた時に、日程が決まってくると会派でバラさないといけない。勉強が目的の時もあるし、市長に提言することを目的にする時もある。</p> <p>・テーマで賛否がわかる時の班編成は？ → そういう時もあるが、両論併記で落とし込んだ。議論をしたことを大事にしている。</p> <p>・制度的な担保のため規定などの作成をしているのか？ → 特にない</p>
<p>所感：</p>	<p>決算を予算につなげるサイクルと政策研究会を委員会活性化という位置づけで有効な手法として学ばせていただいた。特に、決算を予算につなげるサイクルについては、執行部に対しての議会意思に重みをもたせられる仕組みである自信ある発言を聴くことができた。ただ、なんでも提言するといったわけではなく、委員会と全体会において満場一致で合意形成が得られるものになったものだけとなることから、この2つの工程を反対なしに通すためには、通したい側の努力も相当必要となりそうだ。ひとりの議員の取組みでは実を結ばないことを、委員会単位で提言することで議会機能が高まる手法として導入のための協議を今後していく。</p>
<p>視察風景：</p>	

以上

議会改革特別委員会作業部会 委員長 深田龍